



TITLE:

遊民考(一)

AUTHOR(S):

瀧本, 誠一

CITATION:

瀧本, 誠一. 遊民考(一). 經濟論叢 1918, 7(2): 164-177

ISSUE DATE:

1918-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127422>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第七卷 第二號

大正七年八月一日發行

論說

我戰時利得稅ヲ論ズ(一).....

法學博士

小川郷太郎

遊民考(二).....

法學博士

瀧本誠一

相續稅批評ノ重點(三).....

法學博士

神戶正雄

さんちかりずむ概論(三).....

法學士

河田嗣郎

植民地統治ノ形式ニ就テ(三).....

法學士

山本美越乃

黃宗義ノ政治經濟思想(二).....

法學士

小島祐馬

露國ニ於ケル新まゝるくす主義(二).....

法學士

米田庄太郎

時事問題

支那ノ金本位問題ニ就テ(二).....

法學博士

戸田海市

救濟事業ノ調査ニ就テ.....

法學博士

神戶正雄

救濟調査會ニ就テ.....

法學士

櫛田民藏

雜錄

飯島學士譯經濟學原論ヲ讀ム.....

文學士

高田保馬

戰費調達問題(二).....

法學士

小島昌太郎

赤穂ノ鹽田(二).....

法學士

本庄榮治郎

通貨膨脹ト物價騰貴.....

法學博士

神戶正雄

遊民考(二)

瀧本 誠 一

本考ニ遊民ト稱スルハ一定ノ常職ナク、平素何ト云フ極ツタ仕事ヲセズニ、遊ンデ居ルモノヲ指スノデアアル、元來此ノ遊民ト云フコトハ昔ヨリ漢學者ナドガ時々使用シタル言葉デアツテ、新ラシキ用語ニハアラザルモ、從來其ノ意義甚タ漠然トシテ居ツテ、ハツキト精確ナル内容ヲ限定シテ使用シタモノハ無カツタノデアアル、サレバ如何ナルモノガ遊民デアアルカト云ヘバ、勿論ソレハ職業ニ依ツテ別ケルコトハ出來ズ、又階級ニ依ツテ別ケルコトモ出來ナイノデアレバ、先ツ常識ノ判斷ニ據リ平素ブラブラト遊ンデ居ツタモノ、及當然盡クスベキ職務ヲ盡クサナカツタモノナドヲ汎稱スルノデアアル、故ニ茫々るうゴノ言葉デアツテ、固ヨリ學問上ノ精確ヲ缺クノ嫌アレドモ、余ハ茲デハ唯タ徳川時代ニ於ケル事實上ノ狀態ヲ述ベント欲スルノデアアル。

サテ徳川時代ニ於テ一定ノ常職ヲ有セズ、遊ンデ生活シテ居ツタ者ハ、如何ナル人々ナルカト云ヘバ、其ノ中ニハ勿論主トシテ地主及資本家ナドヲ算入スベキ筈ナレドモ、是レハ必ズシモ徳川時代ニ限ラレタコトニアラズ、又我カ日本ニ特種ノ事情ニアラズ、歐米諸國ヲ始メ何レノ邦國、何レノ時代ニモ行ハルル普通ノ社會現象デアツテ、所謂社會主義者ナドノ隘シク論ジツツアル問題デアアル、故ニ余ハ地主及資本家等ハ確カニ立派ナ遊民デアルト信ズレドモ、彼等ハ別問題トシ

テ暫ク之ヲ除外シ、其ノ他ノ遊民ニ付キテ聊カ研究ヲ試ミタイノデアツテ、余ハ今ココニ彼等ヲ三ツニ分類シ、第一ハ武士階級ニ屬スル者、第二ハ社寺支配ニ屬スル者、第三ハ一般下層社會ニ屬スル者トナシテ、順次ニ其ノ概要ヲ述ベントスルノデアルガ、實ハ此ノ分類ノ範圍モ亦甚タ錯雜シテ、判然ト分別シ難キ點ナキニアラズ、唯タ所論ノ便宜ノ爲ノニ斯クノ如ク假リニ分類シタマデノコトデアル、余ハ是ヨリ本題ニ入ルニ先チ、右ノ分類ヲ更ラニ左ノ數項ニ小分シテ、論述スルヲ順序ナリト思惟ス。

(第一) 武士階級ニ屬スル者ノ中ニハ

- 一、本侍 二、準侍及從者 三、無主無祿ノ侍即チ浪人

(第二) 社寺支配ニ屬スル者ノ中ニハ

- 一、僧侶及禪宜 二、山伏修驗 三、虛無僧 四、雜類即チ六部願人坊又ハ護摩ノ灰等

(第三) 一般下層社會ニ屬スル者ノ中ニハ

- 一、火消鳶人足 二、博徒ゴロ付 三、非人乞丐ノ類アリ、

先ツ(第二)ノ武士階級ニ屬スル者ニ就テ述ブレバ武士即チ侍サマライハ徳川時代ニ於ケル最モ重要ノ地位ヲ占メ、四民ノ上位ニ立ツテ他ノ三民ヲ支配シテ居ツタモノデアル、此ノ重要階級ノ侍ガ大多數遊民デアツタト云ヘバ、多少疑ヲ懷カルル人アルベキモ、事實、侍ハ大抵皆其ノ遊民、喰潰シノ甚ダシキモノデアツタ事ハ辨明ヲ要セザルコトデアル、而シテ大名又ハ旗下ナドニ仕フル侍ノ中、

少數ノ者ハ夫レ夫レ特殊ノ役目ヲ命セラレ、主家ノ政事ニ與リ居リテ、此等ノ人々ハ日々ノ勤務頗ブル繁劇ヲ極ムルコトアルモ、侍ノ大多數即チ十中八九ノ者ハ、所謂ル平侍ヒラヤムヒト稱シテ、平生ハ何等ノ公務モナク、唯一定ノ俸祿ニ衣食シテ、悠悠閑々ト朝夕遊ンデ居ツタモノデアル、尤モ武家法度ト稱スル當時ノ憲法ニハ、武家ハ文武兩道ヲ勵マザル可ラザルコトヲ、儼然ト規定シアツテ、諸大名ノ陪臣タル侍ハ、日々文武ノ心掛ヲ怠ル可ラザルヤ勿論ナリト雖、ソレハ唯タ表面上ノコトデアツテ、實際擊劍、弓槍、砲術ナド武士ノ本職ヲ勉メ、旁ラ文學ニ志シテ、讀書勉強スル等ノ事ハ、専ラ青年子弟達ノ仕事デアツテ、彼等ハ右ノ如キ文武諸藝ヲ形バカリ修業シテ、成丁ニ達スレバ、ヤガテ其ノ父ニ代リテ家督ヲ相續シ、同時ニ侍ニ必要ノ諸藝ハ全ク止メテ、忽チ安佚ニ耽リ碁、將碁、俳諧ナドニ腐心スルカ、若クハ又山ニ獵シ川ニ漁シテ、無益ニ其日ヲ送ツテ居ツタノデアル、殊ニ世人ノ知ラルルガ如ク、徳川時代ニハ早ク隱居スルノ風習行ハレ、大抵四十歳乃至五十歳ニナレバ、皆ヅン／＼ト隱居願ヲ差出シテ、退隱スルノ風習ナリシカバ、肝心分別盛リノ働クベキ年輩ニ達スレバ、直ニ世ノ中ヲ謝シテ道服ヲ纏ヒ、點茶ナドニ没頭シテ、自ラ得意ガツテ居ツタモノデアル、故ニ侍ハ諸藝ノ修業中、即チ學生時代ニハ多少學生トシテノ勤務アリシコト疑ヒナシト雖、稍生長シテ丁年トナリ、一家ノ戸主トナリタル者、又ハ隱居シタル者ハ、前ニ述ブルカ如ク特種ノ役目アリタル者ノ外、皆舉ケテ遊民ノ仲間入ヲシタノデアル、當時ノ學者ハ侍ノ此ノ狀態ヲ指シテ、尸位素餐、即チ喰潰シト稱シ、痛ク之ヲ攻撃シタモノデア

ル。

侍ハ一朝有事ノ際ニハ、主君ノ馬前ニ一命ヲ捧ケルト云フノガ、其ノ本來ノ眞面目ナレバ、太平無事ノ日ニ於テ、何等ノ仕事ナク、遊ヒ居ルモ必スシモ其ノ職分ヲ怠リタルモノニアラズト、辯護スル者アルベシ、成ル程大名ガ侍ヲ養ヒ置ク根本ノ目的、此ニ在リトスレバ、大名ノ方ニテハソレデ可ナルベシト雖、主君ノ爲メニ一命ヲ捧クル場合ガ、一生一代ニ到來スルコトアルヤ否、未必ノ事ヲ目當ニシテ、日々遊ンデ居ルト云フハ侍トシテ果シテ至當ノ行爲ナルヤ否ハ問ハズシテ明白ノ事デアル、即チ人間ノ義務及社會ノ利害問題ヨリ之ヲ看察スレバ、確カニ不當ノ行爲デアツテ遊民タル責ハ免カレナイノデアル。

ソコデ此ノ遊民タル侍ノ數ハ、當時ドレ程アツタカガ重要ノ問題ナレドモ、ソレハ遺憾ナガラ徳川時代ニハ戶籍ノコトナド完全ノモノナカリシユヘ、詳細ノ數ハ固ヨリ分ラナイノデアル、明治維新ノ後、彼等侍達ハ皆士族ト云フ名稱ニ改メラレ、明治六年ニハ知行及藏米渡シノ制ヲ廢止シテ、一般ニ公債證書(當時之ヲ祿券ト稱ス)ヲ交付スルコトニ爲ツタノデアルガ、其ノ時大藏省デ取調べタ士族、即チ舊侍ノ總數ハ四十二萬五百七十九人アツタノデアル、然レドモ此ノ數ハ明治維新後士族ニ編入セラレタモノバカリデアツテ、當時勤王方ニ抵抗シタル者、及其他ノ事情ニテ士籍ヲ脱シ、又ハ除カレタル者モ多カッタノデアル、夫レ故徳川時代ノ侍ハ明治六年頃ノ士族數ヨリ多大ナリシコトハ明白デアツテ、實際侍ノ數ハ四十五六萬人乃至五十萬人ハ確カニアリシナルベシト思ハル、サスレバ徳川末年ノ人口ヲ假リニ二千五百萬人ト概算スレバ其ノ中、侍ハザツト百分ノ二位ニ當ルノデアル、總人口ノ二分位トスレバ侍ノ全部皆悉ク遊民デアツタトシタ所デ

(1) 間裁漫筆、細川廣世ノ明治政覽ニモ之レト同員數ヲ掲ケテ此ノ員數ハ封建盛代ノ員數ヨリハ大ニ減少シ居ルコトヲ明記シ居レリ

左程重大ノ問題ニアラズトスルモ、此ニ看過スベカラザル問題ハ、此等ノ侍ニ從屬スル準侍及從者共ノ數デアツテ、此等ハ又實ニ莫大ナル巨額ノ數ニ上ツテ居ルノデアル。

余カ所謂ル準侍及從者ト云フハ、一朝有事ノ際ニハ、矢張り侍ト同シク、各々其ノ主人ニ從ツテ出陣スル者共デアツテ、彼等ハ通例若黨リカダマ、仲間ツルダン、小者ナドト稱シテ居ツタモノデアル、若黨ハ侍ノ眞正ノ家來デ、戰場ニ於テハ主人即チ侍ノ片腕トナツテ戦ヒ、平生ハ主人ニ陪從シテ、其ノ公私ノ用ニ服スルノデアル、小者ハ家來ハ家來ナレトモ草履取ト稱シ、最モ下賤ノ勞務ニ從ヒ、仲間ハ若黨ト小者トノ中間ニアツテ、種々ノ用ヲ辨スルモノデ、其ノ本職トモ云フベキハ槍ヲ持ツテ主人ノ供トモヲスルノデアル、以上ノ者共ハ非常ノ大數デアツテ諸大名ノ臣下タル侍ハ、皆多少ニ限ラズ、此等ノ雜輩ヲ抱ヘテ居ツタモノデアル、「昇平夜話」⁽²⁾ニ記スル所ニ依レバ、薩州鹿兒島藩ノ家老大熊傳藏ト云ノ人ハ、知行高二千石ニテ若黨六十三人、仲間九十人ヲ抱ヘテ居ツタトノコトデアル、千石以上大祿ノ侍ハ大中ノ家中ニハ幾人モアツテ、此等ハ勿論皆何十人ト云フ多大ノ雜輩ヲ抱ヘテ居ツタモノナレド、苟モ侍ノ班ニ列スル者ハ、如何ニ小祿デアツテモ、又如何ニ貧窮デアツテモ、昔シハ皆仲間小者ノ二三人位ハ必ス抱ヘテ居ツタモノナレバ、之ヲ全國ニ通シテ平均スレバ、侍一人ニ此等ノ從者少ナクトモ四五人ニハ當ルベシト思ハル、元來侍一人ハ一騎士ト稱シ、一騎ニハ極ツタ從者ガアツタノデ、足利時代ニハ一騎ノ從者ヲ七八人ト定メ、徳川ノ初代ニハ一騎ヲ十五人トシタモノデアル、然レトモ太平ノ世ノ中トナリ、上下一般ニ困窮スルニ至リ、斯ル制度ハ實際行ハレザルコトナリタルハ事實ナレドモ、兎ニ角徳川時代ノ末期頃マデ侍

(2) 著者ハ不明ナレトモ徳川時代ニ於ケル侍ノ狀態ヲ最モ詳ニ記シタル書ナリ寫本十卷ニテ傳フ

一人ニ數人ノ從者アリタルコトハ明カデアツテ、其ノ員數ハ藩々ノ貧富及士風ノ盛衰如何ニ依ツテ大ニ異ナル所アルベキハ勿論ナレドモ、余ノ推測ニテハ全國ヲ平均スレバ、侍一人ニ雜輩三人以下ニハ下ルマジト信スルノデアル、若五十萬人ノ侍ニ平均三人從屬者アリトスレバ、其ノ總數ハ百五十萬人トナル計算デアル、尤モ徳川氏ノ季世ニ及ンデハ、各藩ノ侍ハ皆何レモ非常ノ窮迫ニ陥リ、堂々タル大祿ノ侍デスラ、平日ハ僅々小數ノ從者ヲ養ヒ、其ノ餘ハ唯ダ鎗刀、陣笠、陣羽織、提灯等、當時軍用上必要トセラレタル器具ヲ自箇ノ身分相當、何十人分カ準備シ置クダケノ事ニ止マツテ、戰時若クハ主君ノ供ヲ命セラレテ、其行列ニ參加スル等ノ場合ニハ、直ニ口入屋ニ申込ンデ、臨時ニ人夫ヲ雇入レ表面譜代ノ家來ラシク裝ツテ事ヲ濟マシタモノデアル、況テ小祿ノ侍ニ至テハ、小者ノ一人モ抱ヘ置クコト能ハザリシハ寧ロ當然デアツテ、各藩ノ中ニハ斯ル實例モ鮮ナカラザリシナルベキモ、全國ヲ通シテ本侍ト之ニ從屬スル雜輩ノ員數トハ、大體ニ於テ一對二ノ割合ト見レバ漠然タル推測ナガラ大ナル差異ハナカルベシト思ハル、サレハ武士階級ニ屬スル遊民ノ數ハ一、二頁即チ本侍ト其ノ從者ナドヲ合計シタダケデ、既ニ凡二百萬人以上ハ之レアリシモノト認メサルヲ得ズ。

加之ナラズ武士階級ニ屬スル遊民ノ中ニハ、無主無祿ノ侍、即チ一般ニ浪士又ハ浪人ト稱シタル一種ノモノガアツテ、彼等ハ種々ノ人格ヲ有スル者ヨリ成リ、中ニハ身元ノ劣惡ナルモノモ少ナカラザリシモ、多クハ舊ハ立派ナル主人持チノ侍デアツテ、素性ノ正シキ者、十中ノ七八分ヲ占メ、皆侍ト同シク腰ニ大小二本ヲ横ヘ威張ツテ天下ヲ横行シテ居ツタモノデアル、今少シク彼等

ニ就テ述フル所アルベシ。

ズト昔時ノ事ハ問題外トナシ、徳川初代ノ頃ノ浪人ハ、大抵其ノ時代ノ落武者デアツテ、織田、明智、豊臣ナドノ家來タリシ侍ガ、主家ノ滅亡ノ爲メ、據ロナク流浪スルニ至ツタノデアツテ、其ノ中ニモ關カ原及大阪ノ役ノ落武者ナド最モ多カツタラシク思ハルノデアル、併シ今茲ニ一般ニ浪人ト稱セラルル者ノ種類ヲ分別スレバ、大凡左ノ五種類デアル。

(イ)主家ノ滅亡若クハ其他ノ事故ニ由リテ祿ヲ離レタル者

(ロ)自ラ志ヲ立テテ自由獨立ノ生活ヲ營ミ居タル者

(ハ)或ル目的ノ爲メニ一時自ラ好ンデ主家ヲ去リタル者

(ニ)犯罪アリテ主家ヲ追放サレ又ハ自ラ退去シタル者

(ホ)侍以外ノ惡黨ニテ擬装スル者

右ノ内(イ)ハ浪人中ノ最大多數ヲ占メタモノデアル、徳川ノ初代ニ於テハ關ケ原ノ役ニ、西軍ニ加擔シタル諸大名ノ大多數ハ皆其ノ封地ヲ褫奪セラレ、或ハ梟首セラレ、或ハ流刑ニ處セラルル等、種々ノ處分ニ逢ツテ、家ヲ亡ボシタルモノ少ナカラズ、之カ爲メニ彼等ノ臣下タル侍ハ、概ネ皆處々ニ散亂シテ浪人トナリ、又大坂ノ落城ト共ニ同シ運命ニ陥ツタモノモ多カリシカバ、寛永ノ頃ノ浪人ハ、大抵此ノ種ノ人々デアツタノデアル、爾後太平ノ世ノ中ニナリテモ、幕府ニ對シテ不忠ノ行爲アリタルモノ、世嗣ナクシテ死没シタルモノ、又ハ封内ニ暴政ヲ行ヒ若クハ治績ノ擧ラザルモノ等ニ對シテ、時々削封ノ處分ヲ行ヒタル結果、夫レ等ノ處分ヲ受ケタル大名ノ臣

下ハ、多ク皆浪人トナルニ至ツタノデアル、尤モ此等祿ヲ離レタル人々中ニハ、或ハ田舎ニ引籠テ歸農シタモノモアルベク、又稀レニハ商人トナツタモノナキニアサルベキモ、大抵ハソナ定職ニ就クコトモ出來ズ、諸國ヲブラツイテ奉公口ヲ求メツツアツタノデアル、何ニカ身ニ一藝アリタルモノ、又ハ伶俐ニシテ才幹アリタルモノハ、更ラニ新タニ主人ヲ見出スコト難カラザリシモ、半バハ浪人トシテ無賴ノ生活ヲ送ツテ居ツタモノデアル。

次キニ(ロ)ノ種類ニ屬スルモノハ多クハ文武ノ道ニ長シタル者共デアツテ、此ノ種ノ浪人中ニハ、所謂儒者ト稱シタルモノ、又ハ劍術ノ達人等アツテ、各々ソレソレ私塾ヲ開キ、道場ナドヲ立テテ、盛ニヤツテ居ツタモノデアル、是等ヲ遊民ノ部類ニ入ルルハチト酷ノ様ナレドモ、浪人ハ確カニ浪人デアツテ、幕府デハ皆公然ト浪人扱ニシテ居ツタノデアル、現ニ伊藤仁齋父子ニ對スル幕府ノ公文書ナドニモ、浪人伊藤何某ト書イタモノガアツタ様ニ記憶セリ、夫レ故ニ嚴正ニ云ハバ浪人ハ皆ナ遊民デアルトハ云ヘナイノデアル、學問ナリ劍術ナリヲ常職トシテ、子弟ニ教授シツツアル者ハ浪人デアツテモ遊民トハ云ヘナイ様デアル、唯々此ノ種ノ人々中ニ所謂文人墨客ト稱ジ、詰ラス詩文ヲヒネクリ、譯ノ分ラヌ書畫ヲ弄シテ、處々方々ヲ喰倒シ飲倒シテ、得意揚々タリシ一種ノ厄介モノガアツタノデアル、寛政以降徳川ノ末年ニ至ル頃ニハ、此ノ類ノ浪人ハ隨分少ナクナカッタ様デアルガ、是ハ純粹ノ遊民デアル。

(ハ)ノ種類ノ浪人ハ或ル特定ノ目的ノ爲メニ、一時自ラ好ンテ主家ヲ辭シタルモノニテ、其ノ中ノ重モナルモノハ、君父又ハ兄弟ナドノ讎ヲ復スルガ爲メ、仇家ヲ尋ントテ主人ノ許可ヲ請フテ、

浪人トナツタノデアル、又其他政治上ノ目的、例ヘバ自分ノ主義主張ヲ貫徹センガ爲メ、或ル種ノ行動ヲナサント欲スルモ、主人ガアツテハ自由ニ行動スルコト能ハズト考ヘ若クハ又自分ノ行動ノ爲メニ主人ニ緊累ヲ及ホサソコトヲ慮リナドシテ故ラニ藩籍ヲ脱シテ浪人トナツタモノデアル、仇家ヲ尋メルト云フガ如キハ多數アルベキコトニアラザルモ、此ノ政治上ノ目的ヲ有スル者ハ随分少ナカラザルノデ、殊ニ徳川氏ノ末年ニハ此ノ類ノ浪人ハ最モ多カッタノデアル、嘉永安政以後攘夷勤王論ノ沸騰シタル際ニ、自箇ノ反對者ヲ暗殺シ、又ハ外國人ヲ打チ攘ハンナドノ目的ニテ、主家ヲ脱走シタル水戸浪人、會津浪人、土佐浪人、壬生浪人、長州浪人、薩州浪人等、頗フル危険ノ行動ヲナシツツアツタモノハ、當時全國到ル處ニ散在シテ居ツタノデアル、此等ノ浪人中ニハ固ヨリ立派ノ政治家アリシコト勿論ナレドモ其ノ多クハ矢張ゴロ付メキタ遊民デアツタノデアル。

(ニ)ハ侍カ微罪ヲ犯シ、又ハ卑怯破廉耻ノ行アルカ、若クハ又其他ノ原因デ所謂ケニズレトコロボツヒ國拂、所拂等ノ處刑ヲ受クテ、其ノ居住地ヨリ追拂ハレタル者デアツテ、此等ノモノハ浪人中デモ素性ノ宜シクナイモノデアル、此等ノモノハ元來帳外モノト稱シ、戶籍簿ニモ何ニモ載ラザルモノユヘ、勿論其ノ員數ハ分ナイノデアル、併シ随分少ナクナカッタ様ニ思ハル、最後ノ(ホ)ハ町人職人稀レニハ百姓ナドニテ、好惡ノ者共、自ラ浪人ト稱シ、總髮サウハツデ大小ヲ差シ、諸方ヲ徘徊シテ、良民ヲ苦シメツツアツタノデアル、是等ハ全ク僞浪人デアツテ、其ノ素性ガ分カレバ固ヨリ相當ノ處分ヲ受クベキ筈ノモノナレドモ、萬事不取締勝チノ徳川時代ニハ、斯クノ如キ匪類ノモノト雖、

殆ンド公然ト大手ヲ振ツテ天下ヲ横行シ、之カ爲メ良民ノ苦シメラルルコトハ甚ダシカツタノデア
ル。

浪人ノ種類ヲ述フレバ、大體右ノ通りデアツタノデアアルガ、徳川時代ノ央頃ヨリ、其ノ末年ニカ
ケテハ、士風段々ニ惡クナリ、甚タ少數ナル學者醫者若クハ武藝ノ達人ナドノ外ハ、大抵惡黨バ
カリガ多クシテ、單ニ浪人ト云ヘバ、天下ノアバレ者、良民ノ害虫ノ如ク見做サレテ居ツタノデ
アル、夫レ故ニ幕府ニ於テバ其取締上ニ非常ノ苦心ヲナシ、時々嚴令ヲ下シテ、之ガ警戒ニ勉
タルモ、何分彼等ノ中ニハ、往々立派ノ侍アリテ、武士道ノ精粹ヲ發揮シツツアツタコトナレバ
之ニ對スル法令ハ、封建主義ヲ尊重スルノ立場ヨリ、多少ノ斟酌ヲ加ヘザル可ラサルガ爲メニ、
ドシ〜嚴重ニ執行シテ、片端ヨリ處罰スルコトモ出來ナカツタノデアアル、サレバ一般ニ惡黨共
ハ此ノ弱點ヲ利用シテ、動モスレバ浪人ノ群ニ投シテ、益々跋扈ヲ極ムルニ至ツタノデアアル、ソ
コデ徳川時代ニ於ケル各種浪人ノ總數ハ果シテドレ程アツタカト云ヘバ、ソレハ余ノ調査ノ不行
届ナル未タ精細ニ之ヲ計上スルノ資料ヲ見出サズト雖、前記(イ)ヨリ(ホ)ニ至ル五種ノ員數ヲ合
計スレバ、中々少數ノ者デナカツタト云フコトダケハ明カデアアル、徳川氏ノ末年政治上ノ目的ニ
テ、一時藩籍ヲ脱シタル者ハ、暫ラク之ヲ論外トスルモ、徳川時代ヲ通ジ二百五十年ノ間、侍
ガ主家ヲ離レテ流浪ノ生活ヲ營ミ居タルモノハ、其ノ數莫大ナルモノデアツテ、元和以降慶應ニ
至ルマデ、何レノ時代ニ於テモ、平均十萬人乃至二十萬人位ノモノハ確カニ之レアツタコトデア
ラフ。

以上ノ事實ニ大過ナシトスレバ總テ武士階級ニ屬スル遊民(第一)ノ總計ハ(一)本侍(二)准侍及從者(三)主人ヲ持タザル浪人ノ三種デ二百五十萬人乃至三百萬人近クニ達シタルナルベシト思ハルガ、此ノ計數ハ余ノ推定ナガラ當ラズト雖遠カラサルモノト信スルノデアル。

サテ其ノ次キハ(第二)ノ社寺支配ニ屬スル遊民デアル、此ノ遊民ノ中ノ重モナルモノハ、僧侶及禪宜デアツテ、禪宜ハ僧侶ニ比スレバ、其ノ數非常ニ少ナクシテ、餘リ重要ノ問題ニアラザレバ茲ニ主トシテ注目ヲ要スルハ、佛教ノ僧侶デアル、僧侶モ禪宜モ多數ノ中ニハ、正直デ眞面目ニ精勵シテ、其ノ職務ニ盡クシツツアツタ者少ナシトナサザルベキモ、其ノ大多數ノモノハ侍同様終日何ノ仕事モナク、遊ンデ喰ツテ居ツタト云フコトハ蔽フ可ラサル事實デアル、或ル有名ノお寺ノ坊サンガ、毎朝薄暗キ時分ニ起キテ、鐘ヲ叩キ讀經シテ、夏デモ冬デモ、一日モ怠ラズ、近所堺隈デモ感心ナ和尙サンダト評判シテ居ツタガ、或ル夏ノ朝一人ノ若者ガフト垣根ノ隙ヨリ和尙ノ居間ヲノゾイテ見タラ、此ノ讀經ノ和尙先生、寢床ニ仰向キニ打臥シ、手ニお經ヲ持チ、足ニ紐ヲ付ケテ、鐘ヲ叩キツツアツタノデ一驚ヲ喫シタリト一笑話ガ或ル俗書ニ記シテアリシガ、實ハホンナ横着ナ無精坊主ナドハ、マダ――上等ノ方デ、十中ノ八九マデハ、酒色ニ沈溺スル破戒墮落ノ俗僧共デアツテ、全ク世ノ中ノ害虫デアツタノデアル、此等ノ惡僧カ徳川ノ中世頃ヨリ非常ニ増加シテ、良民ヲ苦シメ、社會ヲ荼毒シタルコト甚タシカリシ事ハ、徂徠ヤ春臺ナドガ痛斥シテ居ル通りノ事實デアル、乃チ僧侶ハ遊民ノ中デモ消極的ニ働カズニ食ツテ居ツタノミナラズ、積極的ニ害毒ヲ流シツツアツタコトハ宛モ西班牙ナドノ基督教僧侶ト同様ノコトデアル、橋南

谿ノ「北窓瑣談」(後篇)ニ「近世出家の不如法甚多し、官よりも厳しく罰し玉へども、猶不止、是は一子出家すれば、九族天に生るゝの語を信じて、猥に剃髮出家するが故なり」ト云ヘルハ事實ソノ通りデアツタデアラン。

「武家一斑抄」⁽³⁾及「經濟問答秘録」⁽⁴⁾等ニ記スル所ニ依レバ、其ノ時分ニ於ケル日本全國僧侶ノ數ハ、四百六十九萬人アツタトノコトデアル、此ノ員數ハ何ニ據ツテ調べタコトカ分ラザレドモ、此ノ二書ハ共ニ世上ニ知ラレタルモノデアツテ、マンザラ出鱈目ヲ書イタモノデモナカラフト信スルノデアル、太宰春臺ノ「辨道書」ヲ見レバ「田舎ニアル小庵ノ修験ナド合算スレバ僧侶ノ數ハ六七百萬人ニ達スベシ」ト云ツテ居ルガ、是レハ少シ多キニ失スル様ナレドモ兎ニ角全國ニ於ケル僧侶ガ非常ニ多カツタト云フコトハ、此等ノ記事ニ徴シテ明カテアル、然ラバ斯ル大數ノ坊主ガ、ドウシテ出來タカト云フト、昔シ王朝時代ニハ、朝廷ニ玄蕃寮ト云フモノアリ、出家スル者(僧侶トナラントスル者)ニハ度牒^{ドテ}ト云フ認可證ヲ與ヘテ、剃髮ヲ許シタモノデアル、現ニ此ノ度牒ノ法ハ鎌倉時代頃マデモ實行サレテ居ツタトノコトナレトモ、其後武家ノ世ノ中トナリ、古ノ制度段々ト廢絶ニ歸スルニ隨ヒ、此ノ度牒ノ法モ、イツトナク止ンデ仕舞テ、人々自由ニ僧侶トナリ得ルコトトナツタノデアル、元來日本ノ法デハ出家ハ四民ノ外デアツテ、戶籍ヲ離レ、俗界ヲ脱スルノデアルカラ、租税モ出サザレバ、徭役ニモ使ハレズ、殊ニ信仰深キ一般ノ愚民共ハ出家ト云ヘバ非常ニ尊信シタル爲メ、猫モ杓子モ皆出家々々ト云ツテ、坊主トナルコトヲ好シダモノデアル、南谿ガ引ケル「一子出家すれば九族天に生るゝ」ト云フ迷信ハ、當時ニ何クニモ廣ク行ハレ

(3) 水戸藩主烈公ノ著作ナリト云傳フ同公ノ自序アリ

(4) 正司考軒ノ著作

タル謬デアツタト見へ、長州ノ村田清風モ亦此ノ事ヲ引證シテ「愚民之ヲ信シテ年々僧トナル者多シ」ト記シテ居ル位デアル、サレバ奸黠ニシテ愚民ヲ蠱惑セントスル者、私カニ隱謀ヲ企テントスル者、自己ノ罪迹ヲ蔽ハントスル者、身ヲ放縱ニ持崩シテ常職ニ就ク能ハザル者、即チ天下ノ山師、叛人、前科者、無賴者、又ハ懶惰者等、多ク自ラ頭ヲ剃リ黒衣ヲ纏ツテ出家ノ仲間ニ入リタルノミナラズ、眞面目ナル愚民スラモ、迷信ノ爲メニ好シテ彼等ノ群ニ投シタモノト思ハル、故ニ彼等ノ數ガ年々増加シ來ツテ、上記ノ如キ大數ニ上ツタノハ、勿論怪ムニ足ナイノデアル。斯クノ如ク述べ來ラバ天下ノ僧侶ハ、皆悉ク無賴無職ノ遊民バカリデアル乎ト反問スル者アランモ、實ハ全クソウデモナク、彼等ノ總數ノ一割ヤ二割ハ、立派ナ善知識デ、各々其ノお寺ノ住職トシテ、相當ノ勤ヲシテ居ツタコトハ、是レ又疑ナキ事實デアル、然レドモ一體徳川時代ニ於ケルお寺ノ數ハ、非常ニ多クシテ、堂々タル由緒ノアルお寺ノ和尚サンデスラ、平素大抵何等ノ用モナク、手ヲ束ネテ遊ンデ居ツタモノデアル、京都ノ重モナル寺院ハ、歴史的色々ノ關係モアリタルユヘ、一概ニハ論スベカラザル事情ナキニアラザレドモ、全國各地方ニ散在セル無數ノ寺々ハ、多クハ皆甚タ閑散デアツテ、其ノ坊サン達ハ平素常ニ無聊ニ苦ミツツアツタコトハ、今改メテ余ノ辨明ヲ待タザル所デアル、若シ彼等ニ於テ其ノ村々ノ童男童女ヲ集メテ、所謂ル寺小屋流ノ教育ニ従事スルカ、又ハ彼等ガ持前ノ説教デモ日々怠ラス開席シテ、社會ノ爲メニ盡クサントナレバ、幾クラデモ適當ノ方法ハアリシナルベキモ、奈何セン徳川時代ノ僧侶ノ大多數ハ、眼ニ一丁字モナキ愚僧共ニシテ、一向ニ斯ル心懸モナク、只タ食フト寢ルトガ彼等ノ本職デアツタノデアル、否唯ターツノ重要ナル職務ガアツタノデアル、ソレハ何デ在ルカト尋スレバ、當時「所

謂「切支丹ノ請人」ト云フ一大責務ガアツタノデアル。

天草ノ亂後大久保長安ノ陰謀事件以後、我國ニ於ケル切支丹、即チ基督教ノ取締非常ニ嚴重ニナリ、尙モ同宗徒ノ嫌アル者ハ、悉ク捕ヘテ磔刑ニ處スルト云フ様ニナリ、何レノ地方、何レノ土地ニデモ其ノ所々ノ人民ハ、連帶責任ヲ以テ切支丹ノ取締ニ任シテ居ツテ、夫ノ五人組ノ提書ノ眞先キニ、其ノ事ヲ記載シテ切支丹ハ一切自村ニハ入レマジト云フ誓言ヲシテ居ツタ位ノコトデアル、故ニ其ノ當時移轉、旅行、嫁入、婿取等ノ場合ニハ、必ス切支丹デナイト云フコトヲ保證スル請證ガ必要デアツタノデ、此ノ請證ヲ出スノガ寺々ノ職業ノ一ツデアツタノデアル、切支丹ノ請人ト云ヘバ切支丹デアルト云フ請人ノ様ナレドモ、全ク其ノ反對デ、切支丹ニアラズト云フ保證デアツテ、コレハ一般村民ノ請求ニ應ジ、其ノ所ノ寺ニ於テ相當ノ手数料ヲ取ツテ出シテヤツタモノデアル、水戸ノ學者立原翠軒ノ遺書「翠軒漫錄」ニ「今ノ世切支丹ノ請人ニ頼メバコソ、坊主ヲ大事ニスレドモ、亂世ニハ何ノ請人モ入ラサレバ、坊主百人ノ中九十人マデハ餓死スベシ、其内本當ノ出家、法力ニテヤウヤウト食ツテ行ケル坊主ハ、ヤツト十人モアルベキカ」云々ト述ヘテ居ルガ、一體水戸ハ坊主嫌ノ國デ、光圀卿以來時々激烈ナル坊主征伐ヲ行ツテ、國中ノ寺ノ多クヲ叩壊ハシ、其ノ惡僧共ヲ片端カラ放逐シタノデアツテ由來寺ト坊主ハ割合ニ少ナキ所ナルガ、夫レデサヘ百人ノ中九十人、即チ十分ノ九マデ、ヤツト切支丹ノ請人デ喰ツテ居ツタト云ヘバ、日本全國ノ坊主ハ、確カニ九分以上切支丹ノお蔭デ生活シテ居ツタモノラシク思ハルノデアル、之ヲ要スルニ翠軒ノ話ノ眞偽ハ兎ニ角、徳川時代ノ僧侶ノ大多數ガ、社會ノ「バラサイト」ノ重モナルモノデアツタト云フコトハ歷史上否認ノ出來ヌ事實デアル。